

比較地域社会学／比較社会論（宮内）-2005
貧困・民族・生活の社会学



■授業の目標

発展途上国における諸問題——南北問題、貧困、民族問題、発展や環境の問題——を、住民の生活からの視点で考えます。

■到達目標

発展途上国における民族、貧困、開発、環境の問題について、さまざまな事象を、適切な概念を使って、論理的に説明できることを到達目標とします。

■授業計画

1. モノから考える南北問題

一国一国は別々に存在しているわけではなく、相互に関連しあって存在している。このことを、いくつかの具体的なモノを通して考えてみよう。

2. 「貧困」って何だ？

住民の生活から考えたとき「貧困」とは何か、を掘り下げて考えます。さらにそれを本当の意味で克服するためには何が求められているかを考えます。

たとえば、フィリピンのスラムの少年たちの生活をビデオで見、彼らが何を必要としているのかを考え、そこから「貧困」とは何か、「豊かさ」とは何か、について考えます。

さらに、貧困克服のためにどういったことに取り組めばよいのか、各地の事例から考えます。

3. 「民族」って何だ？

世界における「民族紛争」を素材に、「民族」とは何か、を考える。「民族」とは固定的なものではなく、流動的なものであることを掘り下げる。

たとえば、ルワンダにおける民族虐殺についてのビデオを見、そこから「民族」とは何かを考える、あるいは、「異文化理解」とは何かについて考える、といったことをやります。

■評価の基準と方法

(1) 講義の内容を理解し、講義に積極的に参加している、(2) 中間レポートが適切に書けているか、そして、(3) 期末レポートが講義の到達目標に応じて書けているか、によって成績を評価します。期末レポートについては、講義内容を踏まえながら、オリジナリティと論理をもってしっかりと書けているか、が評価基準になります。

上記の(1)～(3)3つを総合的に判断して評価します。総合的に優れた成績をおさめたものが「優」、およそ目標を達した者が「良」、目標を下回ったものが「不可」です。

比較地域社会学
授業スケジュール

1	4月12日	【モノから考える南北問題】 ・たわしの社会学	
2	4月19日	・ナタ・デ・ココのビデオから考える	
3	4月26日	・ゴム・タイヤ=BSのビデオ（フランス制作）から	
4	5月10日	・かつお節と日本人	
5	5月17日	【貧困って何だ？】 ・スマーキーマウンテンのビデオから	
6	5月24日	・貧困とは何か？（資料を読んで考える）	
7	5月31日	・貧困とは何か ・ケララのこと（PowerPoint） ・『オルタ』ケララ特集号からプリントを渡す ・セン、中村尚司、J.フリードマン、R.チェンバース ・NGOの方向 ・グラミン銀行のビデオ（ビデオNo.293）	
8	6月7日	・ビデオ262・ニュース23「特集・インドの路上から」（児童労働）+国際子どもの権利センター雑誌より「バタフライズ」などの記事のプリント ・レポートの書き方、情報の集め方	期末課題提示
9	6月14日	【民族って何だ？】 ・ルワンダのビデオから	
10	6月21日	・「民族とは何か？そして、民族は今後どうあるべきか」のグループディスカッション→ワークシートを提出	
11	6月28日	・学生たちのワークシートから ・宮内のまとめ	
12	7月5日	・フェアトレードは本当にフェアか？	
13	7月12日	・どさんこ 船田医師報告	
14	7月19日	・ソロモン諸島=住民の移住戦略や半栽培から見る社会的なものへの注目	

たわしに埋め込まれた＜社会＞

たわしの年表

1907(M40)年以 前	わらをたばねたものなど、台所で使った繊維性の洗い道具は、 全国各地域にあった。それは、モダラ、トラ、トギタラ、など 様々な名前で呼ばれていたし、形も一様ではなかった。現在の たわしの形をしたものはなかった。	(多様性をもった伝統)
1907(M40)年	東京のシュロ縄商人、西尾正左衛門が、今の形のたわしを発明 し、亀の子たわしと名付ける。原料にはスリランカのココヤシ 繊維を使う（←背景に、イギリス植民地下のスリランカでのブ ランテーション開発）。 当初はあまり売れなかつたが、はでな宣伝によって、そのうち 爆発的に売れるようになった。 (たわしがヒットした背景) 1. 箱膳からチャブ台への変化の中で、洗う形式が変化した。 2. 天ぷら、フライ、チキンライスといった油料理の普及。 3. 「ぱいきん予防」という新しい衛生観念の普及。	(植民地支配と日本) (生活の変化とたわし)
:	:	
1963(S38)年	スポンジたわし登場	
1960年代半ば	スリランカでのたわしの開発輸入始まる。低賃金労働に支えら れたたわし生産。	(南北問題とたわし)
1986年	マッサージ用たわしを西尾商店が売り出し、ヒット。	(健康ブームとたわし)



たわしの社会学

1. たわしは近代日本の産物である。
2. たわしは当初から南北問題と結びついている。
3. たわしは食事形態の変化、そして近代的衛生観念と結びついている。



身近なものの中に、歴史や社会構造が埋め込まれている。

【参考文献】

鶴見良行・宮内泰介編, 1996, 『ヤシの実のアジア学』コモンズ

宮内泰介, 1997, 「たわしに込められた歴史を解く」川添登・佐藤健二編『講座生活学第2巻・生活学の方法』

（光生館）pp. 99-111

ナタ・デ・ココ から考える

専攻	
学生番号	
氏名	

ビデオを見て、ナタ・デ・ココをめぐって、何が原因でどういう問題が生まれたか、想像力を働かせながら、自分なりの図を書いてください。その際、ビデオに出てこなかった問題も自分で推測しながら書いてください。

↓

グループディスカッション

↓

ナタ・デ・ココ問題は、

問題である。

（↑50～100字程度で）

比較地域社会学／比較社会論（宮内）-2005 ビデオ「国際タイヤビジネスの舞台裏」から

【ビデオを見ながら、登場人物（アクター）を書き出し、その相関図を描いてください】

専攻	
学生番号	
氏名	

比較地域社会学／比較社会論（宮内）2005

参考文献

ゴールデンウィークに読んでみよう

■モノを通して考える南北問題

鶴見良行, 1982, 『バナナと日本人』岩波書店

村井吉敬, 1988, 『エビと日本人』岩波書店

村井吉敬・鶴見良行編, 1992, 『エビの向こうにアジアが見える』学陽書房

鶴見良行・宮内泰介編, 1997, 『ヤシの実のアジア学』コモンズ

藤林泰・宮内泰介編, 2004, 『カツオとかつお節の同時代史』コモンズ

出雲公三, 2001, 『バナナとエビと私たち』（岩波ブックレット）岩波書店

バナナ、エビ、ヤシ、かつお節といったモノを素材に南北問題を考える。最後の『バナナとエビと私たち』は、漫画で、とても読みやすい。

岡本幸江編, 2002, 『アブラヤシ・プランテーション開発の影——インドネシアとマレーシアで何が起こっているか』日本インドネシアNGOネットワーク

拡大するアブラヤシ・プランテーションの裏で起きている、環境破壊、労働問題等の実態を市民が調べた。

どこからどこへ研究会, 2003, 『地球買いモノ白書』コモンズ

日本の家庭にあふれる価格の安い輸入品。それらはどうやって生産されているのだろうか。そんな疑問を抱いたNPOのメンバーや主婦ら13人が「どこからどこへ研究会」をつくり、チキン、マグロ、カップ麺、缶コーヒー、雑誌、スポーツシューズ、ケータイ、ダイヤモンドといったモノの由来を調べた。私たちの生活に反省を迫る。

■発展途上国の人々の暮らしから

門田修, 1996, 『海が見えるアジア』めこん

アジアの海のルポライター門田修さんの作。海を生きる人々の姿が生き生きと描かれる。国家という枠組みではなく生きている人々。

松田素二, 1996, 『都市を飼い慣らす：アフリカの都市人類学』河出書房新社

アフリカ、ケニアのスラム街で一緒に生活した人類学学者松田素二が描く、人々の生活世界。

石井正子, 2002, 『女性が語るフィリピンのムスリム社会—紛争・開発・社会的変容』明石書店

紛争が絶えないフィリピン・ミンダナオ島で、女性たちはどう生きてきたか。

期末課題



以下のいずれかのテーマを選び、

- (1) 南北問題とはどういうものか？
- (2) 貧困とは何か？ あるいは、貧困の克服とは何か？
- (3) 発展途上国における開発／発展の問題にはどういうものがあるか？
- (4) 民族（問題）とは何か？

その選んだテーマについて、事例を挙げながら論じなさい。

必ず1つ以上（できれば2つ以上）の事例を（文献資料などから拾って）挙げ、そこから考察して、自分の結論へ持って行くという形をとってください。序論→本論→結論、という道筋を立て、適宜、節番号(1, 2, ..., あるいは1-1, 1-2, 2-1, 2-2など)と小見出しをつけてください。

適切なタイトルを自分でつけてください。

枚数=A4用紙5~6枚程度（長くなってもかまいませんが、長いからいいというものでもありません）。

締切： **8月3日（水）**

提出先：文学部E304内レポートボックス



【注意点】

何に注意して書くべきか？=何が評価基準か？

1. 課題の趣旨に沿っているか。講義を踏まえているか（もちろん講義の内容をなぞればいいではありません）
2. 記述の根拠がしっかりとしているか（資料や文献等にちゃんと当たっているか。勝手な思い込みで書いていないか）。
3. オリジナリティ（独創性）があるか。
・文献に書かれてあることをなぞっただけのレポートは低くしか評価されません。拙くてもオリジナリティが必要です。
4. 論理性があるか（言いたいことがよくわかるか）。文章が日本語としてまとまか（誤字はないか、など）。
5. 事例からの議論をちゃんとしているか。“当たり前の結論”になっていないか。
6. 単なる事例の紹介にならないこと。

その他の注意点

1. 必ずA4用紙を使ってください。ホッチキスで左上を必ず綴じてください。表紙は付けないでください。
2. 原則としてレポートは返却しませんので、必ず自分でコピーを取ってから提出してください。
3. 期末レポートについて、宮内からの具体的なコメント・評価を希望の人は、レポート1枚目の右肩に「コメント希望」と書いてください。その場合、提出後、あらかじめ電話してから宮内研究室（文学部E202。電話011-706-4150）に来てください。
4. レポート作成にあたっての質問はいつでも受け付けます。メールなら、miyauchi@reg.let.hokudai.ac.jp。電話は011-706-4150。



貧困とは何か？

生活 (livelihood) を支えるもの

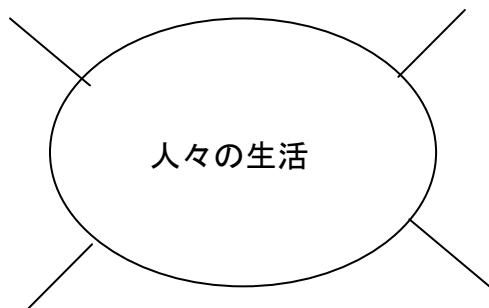
比較地域社会学（宮内）-2005

専攻	
学生番号	
氏名	

「貧困とは何か？」ということを“人びとの生活 (livelihood)”というレベルから考えたい。

↓

- (1) ビデオを見て、「人びとの生活を支えているもの／人びとの生活を脅かしているもの」について、以下の図を作り、(2) それをもとにグループで「彼らは貧困か？」、「貧困とは何か？」、「人びとの生活を支えているものものは何か？」、「人びとの生活を脅かしているものは何か？」について話し合い、(3) 最後に、話し合いをもとに各自下図を修正しなさい。



【メモ】



比較地域社会学／比較社会論（宮内）2005

貧困とは何か？

専攻	
学生番号	
氏名	

グループ内で資料を読みあい、「いったい貧困とは何なのか？」について議論しなさい。

考えるヒント

- ・貧困は数値化できるか？
- ・貧困は所得に還元できるか？
- ・貧困はそれぞれの文化・社会によって違うのか、それとも共通するものがあるのか？
- ・「社会的な貧困」という言い方はありうるか？
- ・“貧困－豊かさ”を構成する要素はどういうものか？
- ・何が生活の向上や生活の安定を妨げているのか？
- ・貧困を解決するにはどうしたらよいか？

議論で使ってはならない言葉＝「精神的な豊かさ／貧しさ」

議論から出てきたポイント

↓

貧困とは何か、自分なりの定義を200字程度で作りなさい。

資料

①チェンバース『参加型開発と国際協力』pp.378-385	
②チェンバース『参加型開発と国際協力』pp.407-411	
③筒井哲朗『バングラデシュの女性たち』pp.16-20	
④杉本尚隆『あるバングラデシュ農民の生活から——ハフェーズさんの暮らし』pp.18-29	
⑤マイケル・モリシュ『第三世界の開発問題』pp.14-19「北部ガーナ・ダトイリ村にて」	
⑥マイケル・モリシュ『第三世界の開発問題』pp.182-183「ルサカ：自力更生のスクオッター」	



比較地域社会学／比較社会論（宮内）

2005

貧困とは何か？

参考文献

西川潤, 1994, 『貧困（新版）』（岩波ブックレット）岩波書店

西川潤, 2000, 『人間のための経済学－開発と貧困を考える』岩波書店

『貧困（新版）』は、発展途上国の「貧困」とは何かが、わかりやすく整理された本。『人間のための経済学』は、人間の経済を求める開発経済学者西川潤の最近の論考を集めたもの。

穂坂光彦, 1994, 『アジアの街 わたしの住まい』明石書店

スラム（スクオッター）問題に経験から迫る。

J. フリードマン, 1995, 『市民・政府・NGO』新評論

発展途上国の人間開発を考えるためのベストな理論書。

ロバート・チェンバース（穂積智夫他訳）, 1995, 『第三世界の農村開発 貧困の解決——私たちにできること』明石書店

発展途上国の開発問題に携わる専門家やNGOワーカーの間でたいへんよく読まれているロバート・チェンバースの本。発展途上国の農民たちを「開発」の本当の中心にもってこよう論じる。同じ著書の『参加型開発と国際協力——変わるのはわたしたち』（2000, 明石書店）もいい。

アマルティア・セン, 1999, 『不平等の再検討—潜在能力と自由』岩波書店

ノーベル経済学賞受賞者アマルティア・センの理論書。貧困とは、豊かさとは？ 「潜在能力（capability）」が軸に考えられなければならないことを説く。センの本やセンを論じた本は近年多くある。読みやすいものとして、セン『貧困の克服——アジア開発の鍵は何か』（集英社新書、2002）がある（読みやすい解説付き）。

M. モリッシュ, 1993, 『改訂版 第三世界の開発問題』古今書院

発展途上国がかかるさまざまな社会問題——農業問題、医療、出稼ぎ、都市問題——について、わかりやすく解説。

貧困とは何か？



著作権処理の都合で、
この場所に挿入されていた表を
省略させて頂きます。

（出典）穂積智夫, 1998, 「女性の社会参加と開発」斎藤千宏『NGOが変える南アジア——経済成長から社会発展へ』コモンズ, p.237

アマルティア・セン

貧困=「受け入れ可能な最低限の水準に達するのに必要な基本的な潜在能力 capability（ケイパビリティ）が欠如した状態」（セン, 1999:172）。

潜在能力 capability=「『様々なタイプの生活を送る』という個人の自由を反映した機能のベクトルの集合」（セン, 1999:69）。ある人が選択することのできる「機能」（たとえば「適切な栄養をとっている」「教育を受けている」「社会生活に参加している」など）の集合。

「貧困とは、福祉水準が低いということではなく、経済的手段が不足しているために福祉を追求する能力がないことである」（セン, 1999:173）

「所得水準で考えるならば、貧困の概念において重要なのは、それが最低限必要な潜在能力をもたらすには足りないということであり、個人の特徴とは無関係な所得水準の低さそのものが問題なのではない」

中村尚司

貧困=「経済的従属関係の深まり」（中村尚司, 1989:4）

「貧困とは、衣食住の充足度、あるいはカネやモノの有無によってのみ決まるのではなく、人間と人間との社会的な関係のあり方によって決まる、と考えたほうがよさそうである。貧乏は生活資料そのものに由来するのではなく、人と人との間、地域と地域との間、国と国との間にやどっているのである」（中村尚司, 1989:157-158）

→南北問題の解決案=（1）脱商品化と脱国際化、（2）経済行政の分権化、（3）生活資料の貿易縮小、（4）産業用資源や生産用具の貿易継続、（5）非商品の交流促進

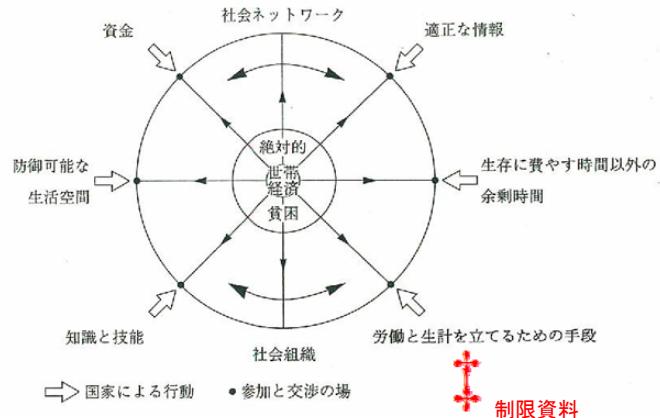
図 フリードマンの「力の剥奪モデル」
（「社会的な力の基盤へのアクセス不足」としての貧困）

ジョン・フリードマン

貧困=「社会的な力の剥奪の一形態」

(J. フリードマン, 1995:3)

「貧しい世帯はその構成員の生活条件を改善するための社会的な力を欠いている存在」 (J. フリードマン, 1995:114)



出典: J. フリードマン, 1995, 『市民・政府・NGO』新評論 pp. 115

ロバート・チェンバース

「窮乏化 (deprivation) は、5つの状態が互いに絡み合うことによって生み出されており、一度その罠にかかった人々はそこからなかなか脱け出ることができない。その5つとは、物質的貧困 (poverty)、身体的弱さ (physical weakness)、孤立化 (isolation)、不测の事態に対して脆弱なこと (vulnerability)、そして政治力や交渉力がないこと (powerlessness) である。この5つの状態はどれも重要であるが、中でも、貧しい人々が外からの影響や不慮の事態に対して脆弱なこと、そして交渉の場や何かを决定する場で力をもっていないことには、とくに注意を払わなければならない」 (ロバート・チェンバース (穂積智夫他訳), 1995:200)

↓

貧困の解决 = エンパワメント empowerment

↓

ではどうエンパワメントするのか？

NGO がとった方向

・意識化

cf. パウロ・フレイレ 『被抑圧者の教育学 Pedagogy of the Oppressed』

cf. ロバート・チェンバースらの PRA (Participatory Rural Appraisal. 主体的参加型農村調査法) (ロバート・チェンバース, 2000)

・組織化

・マイクロクレジット

グラミン銀行の「成功」

→ビデオを見て、大事なポイントは何か考えよう

文献

アマルティア・セン, 1999, 『不平等の再検討——潜在能力と自由』岩波書店

中村尚司, 1989, 『豊かなアジア 貧しい日本』学陽書房

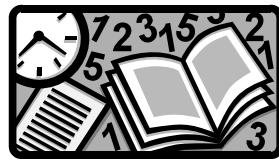
J. フリードマン, 1995, 『市民・政府・NGO』新評論

ロバート・チェンバース (野田直人他訳), 2000, 『参加型開発と国際協力』明石書店
(CPM やケーララ州について→)

斎藤千宏編, 1998, 『NGO が変える南アジア——経済成長から社会発展へ』コモンズ
(グラミン銀行については→)

渡辺龍也, 1997, 『「南」からの国際協力——バングラデシュ グラミン銀行の挑戦』(岩波ブックレット no.424) 岩波書店

ムハマド・ユヌス, 1998, 『ムハマド・ユヌス自伝——貧困なき世界をめざす銀行家』早川書房



情報収集法基礎

情報はあちこちに転がっている。うまく拾ってこよう。

これが基本！

1. 雑誌論文→

- ・国会図書館OPAC-NDL (<http://opac.ndl.go.jp/>) 「雑誌記事索引検索」をまず検索。
読みたい論文・記事があったら、その雑誌が北大にあるか検索し、なければ、文学部図書室を通じて他大学からコピーを送ってもらう（実費がかかる）。
- ・社会学関係の文献検索は
 - ・日本社会学会 社会学文献情報データベース (<http://160.26.63.24/scripts/jss/jssdb.exe>)
 - ・一般雑誌については、附属図書館本館 4F にある『大宅壮一文庫索引目録 CD-ROM』で検索する。

2. 図書資料→

- ・北大図書館 <http://www.lib.hokudai.ac.jp/opac/>
- ・Webcat（他大学での所蔵） <http://webcat.nii.ac.jp/>
→北大にないものは、文学部図書室を通じて他大学から借りる。
- ・WebcatPlus <http://webcatplus.nii.ac.jp/>
Webcat の進化版。「連想検索」してくれるので、広い範囲から探せる。

本の探し方・裏ワザ

- ・インターネット書店 bk1 (<http://www.bk1.co.jp/>) で探すと、本の内容などからも検索できる。
- ・WebcatPlus で、文章や複数のキーワードを入れてみて検索すると、関連する本がたくさん検索され、さらに柔軟に絞り込んでいく。

→こうして探した本を、再び北大図書館で検索。なければ他大学から借りる。

3. 新聞記事→

- ・北海道新聞データベース
北大内のコンピュータから、<http://www.lib.hokudai.ac.jp/gakunai/doshindb.htm> へアクセスしてください。札幌で読む北海道新聞には載っていない地方の記事まで、全部収録されています。
- ・朝日新聞データベース
附属図書館 4 階参考閲覧室の端末から、オンラインの朝日新聞データベースが利用できます。地方版もかなりの程度収録されています。
- ・附属図書館本館 2F に、朝日新聞（1985～）・毎日新聞（1991～）・日本経済新聞（1991～）の CD-ROM があります。また、朝日新聞の戦後 50 年分の記事見出しデータベース CD-ROM (CD-ASAX 50yrs.) もあります。
- ・沖縄タイムス記事データベース（無料） <http://www.okinawatimes.co.jp/com/dbinfo.html>
(共同通信配信の全国ニュースや他の府県の記事も結構あって十分使える)

- ・朝日、読売、日経、北海道新聞などの縮刷版
(いずれも、かなり古くからのものが付属図書館本館 2F にあります)

4. 官公庁資料

- ・各官庁の Web で探す
 - ～統計資料等は近年とみに充実してきている。
- ・北大で探す（残念ながらあまり充実していない）
- ・Web にも北大になれば、政府刊行物センター（JR 札幌駅北口）や道立図書館（JR 大麻駅）
(<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.jp/hk-tosh/index.htm>)、北海道庁文書館（赤レンガ庁舎 1F）、札幌市立中央図書館 (<http://www.city.sapporo.jp/tosyokan/>) などで探す。

5. 英語文献→

- ・英語の雑誌記事・学術論文→Ingenta (<http://www.ingenta.com>) ～世界中の雑誌記事・論文が検索できる。北大が契約している雑誌については、ただでダウンロードできる。

北大の図書館の使い方については、「図書館利用案内」 (http://www.lib.hokudai.ac.jp/j_guide/lib0_j.html) を見てください。また、

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術』 (岩波アクティブ新書) 岩波書店

には、文献検索・資料収集の方法が詳しく書いてあり、さらに、フィールドワークの方法やまとめ方も書かれています。宮内のホームページにも、「市民のための情報収集法」
<http://reg.let.hokudai.ac.jp/miyauchi/joho.html> がありますので、参考にしてください。

論文レポートの書き方については、以下の 2 冊がたいへん参考になります。

木下是雄, 1994, 『レポートの組み立て方』 (ちくま学芸文庫) 筑摩書房
浜田麻里他, 1997, 『大学生と留学生のための論文ワークブック』 くろしお出版

比較地域社会学／比較社会論－2005
論文・レポートにおける出典の書き方



■ 本文中の書き方

・直接引用の場合

- ・大熊孝は、「近代治水とともに始まったこの問題は、そのままの形でいまわれわれに問われているのである」(大熊孝, 1988:24) と言っている。
└→p.24のこと
- ・「近代治水とともに始まったこの問題は、そのままの形でいまわれわれに問われているのである」(大熊孝, 1988:24) という指摘があるように、……。

・間接引用の場合

- ・大熊孝 (1988:24) が言うように、この問題は近代治水とともに始まっている。
- ・この問題は近代治水とともに始まっている (大熊孝, 1988:24)。

■文献リストの書き方

レポートの最後に以下のようなアルファベット順ないしあいうえお順の文献リストをつける。

【文献リスト】

.....

- 清水昭俊, 1981, 「独立に逡巡するミクロネシアの内情」, 『民族学研究』10(2):120-134.
清水靖子・宮内泰介, 1992, 「開発協力という名の熱帯林伐採」村井吉敬編『検証・ニッポンのODA』学陽書房, pp.83-156
富山和子, 1974, 『水と緑と土』(中公新書) 中央公論社
森薰樹・永井大介, 1986, 『日本のダム開発』三一書房
大熊孝, 1988, 『洪水と治水の河川史』平凡社
高橋裕, 1988, 『都市と水』(岩波新書) 岩波書店
.....

■ 図書文献の書き方

和書 高木仁三郎, 1994, 『プルトニウムの未来』岩波書店

和書名は必ず『』で囲む。

洋書 Ekins, Paul, 1992, *A New World Order: Grassroots Movements for Global Change*, London: Routledge.

ファミリーネームを前に持ってくる。

英文(欧文)書名は、イタリック(斜体)か下線。

副題 sub-title がある場合は、和書なら——(ダッシュ)か:(コロン)で結び、
洋書なら:で結ぶ。

図書の中の論文は次のように書く。

清水靖子・宮内泰介, 1992, 「開発協力という名の熱帯林伐採」村井吉敬編『検証・ニッポンのODA』学陽書房, pp.83-156

Chambers, Robert, 1992, "Sustainable Livelihoods", in Ekins, Paul and Manfred Max-Neef, 1992, *Real-life Economics*, London and New York: Routledge, pp.214-229.

■ 雑誌論文の書き方

和文

清水昭俊, 1981, 「独立に逡巡するミクロネシアの内情」, 『民族学研究』10(2):120-134.

←これは、『民族学研究』第10巻第2号のpp.120-134ということ

専攻	
学生番号	
氏名	

比較地域社会学（宮内泰介）-2005

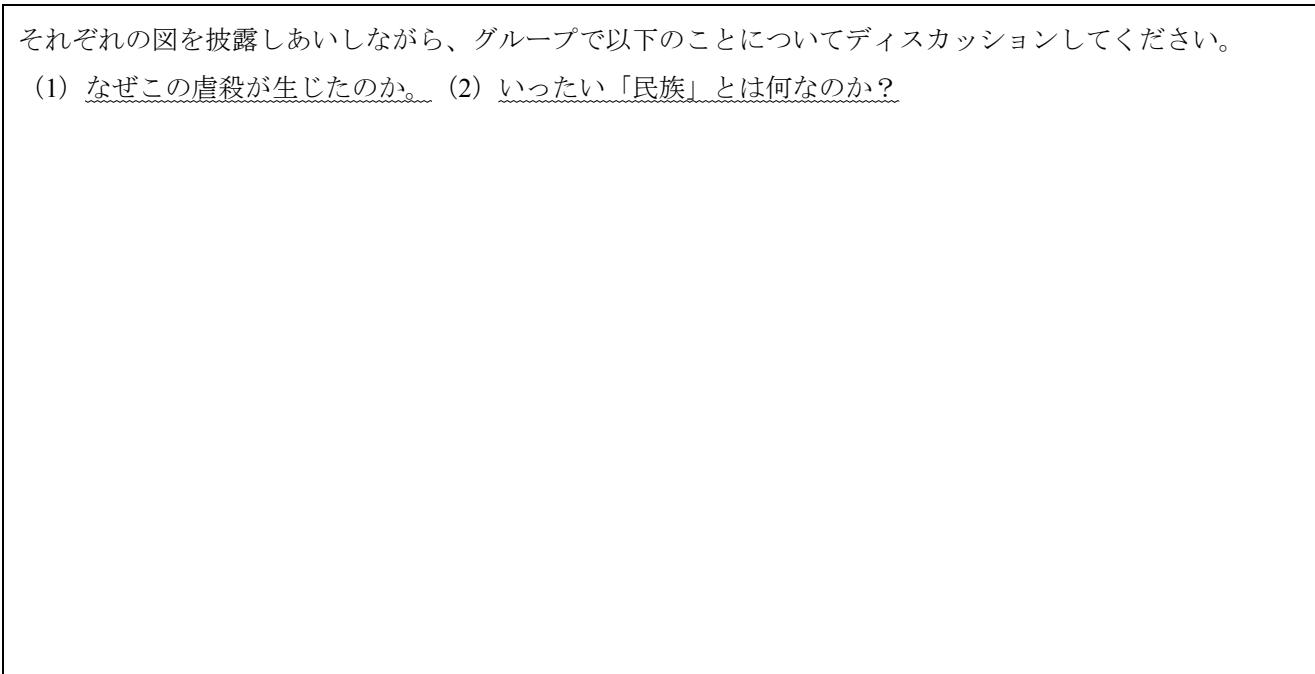
「民族」と虐殺

ドキュメンタリービデオ「NHK スペシャル なぜ隣人を殺したか～ルワンダ虐殺と煽動ラジオ放送」を見ながら、何がこの民族虐殺（ジェノサイド）を生み出しのか、図式化せよ。




それぞれの図を披露しあいしながら、グループで以下のことについてディスカッションしてください。

- (1) なぜこの虐殺が生じたのか。 (2) いったい「民族」とは何なのか？




どんなことが話し合われたか、報告してもらいます。



民族とは何か？

専攻	
学生番号	
氏名	

先週のビデオおよび資料を参考に、民族とは何か、そして民族は今後どうあるべきか、グループで議論した上で、各自 200 字程度で書いてください。

考えるヒント：

- ・在日 Korean（在日韓国・朝鮮人）は朝鮮半島に住む Korean と同じ民族か？
- ・アメリカの日系 3 世の「民族」は？ アメリカの「黒人」（最近は Afro-American=アフリカ系アメリカ人と呼ぶ）は「民族」か？
- ・民族は擬制（虚構）か、実態か？ あるいは、どちらでもない何かか？
- ・「民族」という枠組はなくなった方がいいか、そうではないか。そうではないとすれば、どういうあり方がベターか。
- ・民族の言語がなくなるのはいいことか、悪いことか。それはなぜか。そもそも「民族の言語がなくなる」とはどういうことか？
- ・「民族の尊厳」は、どういう場合に積極的に評価でき、どういう場合にできないか。そもそも「民族の尊厳」とは何か。

【メモ】

比較地域社会学／比較社会論（宮内）-2005

民族とは何か？

参考文献

【全般】

原尻英樹, 1999, 『世界の民族——「民族」形成と近代』放送大学教育振興会

田中克彦, 1991, 『言語からみた民族と国家』(同時代ライブラリー:81)岩波書店

山内昌之, 1993, 『民族と国家——イスラム史の視角から』（岩波新書）岩波書店

松原正毅編集代表, 1995, 『世界民族問題事典』平凡社

松田素二, 1999, 『抵抗する都市』岩波書店（第2章「民族化する社会」）

【日本の中の民族問題／日本における多文化共生の可能性】

チカッピ美恵子, 1992, 『風のめぐみ——アイヌ民族の文化と人権』御茶の水書房

上村英明著, 1993, 『知っていますか？ アイヌ民々族一問一答』解放出版社

北海道新聞社会部編, 1991, 『銀のしずく——アイヌ民族は、いま』北海道新聞社

中野秀一郎, 今津孝次郎編, 1993, 『エスニシティの社会学——日本社会の民族的構成』世界思想社

沼尾実, 1996, 『多文化共生をめざす地域づくり横浜・鶴見・潮田からの報告』明石書店

外国人地震情報センター, 1996, 『阪神大震災と外国人「多文化共生社会」の現状と可能性』明石書店

【アジア・太平洋の民族問題】

小川忠, 1993, 『インドネシア——多民族国家の模索』（岩波新書）岩波書店

中嶋弓子, 1993, 『ハワイ・さまよえる楽園——民族と国家の衝突』東京書籍

永井浩, 1991, 『オーストラリア解剖』晶文社

横田幸典, 2001, 『東ティモールに生まれて 独立に賭けるゼキトの青春』現代書館

南風島渉, 2000, 『いつかロロサエの森で——東ティモール・ゼロからの出発』コモンズ

【アフリカの民族問題】

栗本英世, 1996, 『民族紛争を生きる人々』世界思想社

【ユダヤーパレスチナ】

板垣雄三, 1992, 『歴史の現在と地域学』岩波書店

【ヨーロッパ・アメリカの民族問題】

梶田孝道, 1993, 『統合と分裂のヨーロッパ——EC・国家・民族』（岩波新書）岩波書店

岡部一明, 1991, 『多民族社会の到来——国境の論理を問う外国人労働者』御茶の水書房

【先住民族】

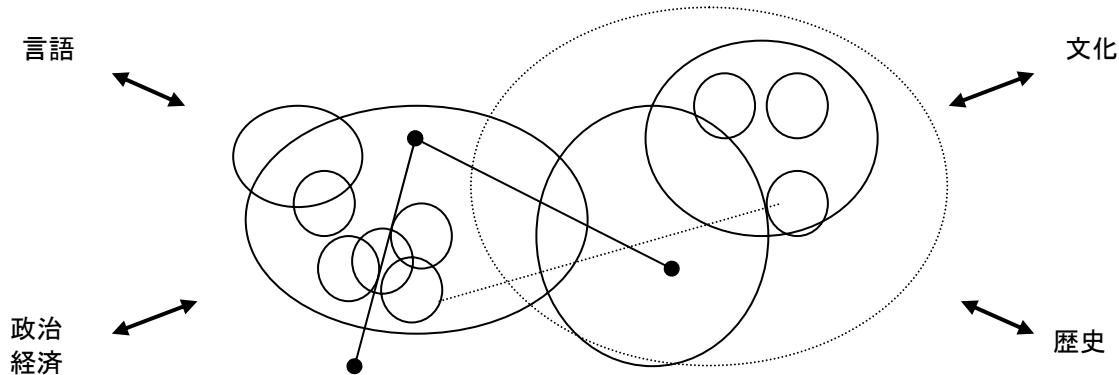
ジュリアン・バーガー, 1992, 『世界の先住民族』明石書店

上村英明, 1992, 『先住民族——「コロンブス」と闘う人びとの歴史と現在』解放出版社

民族とは何か？

民族とは何か、そして民族は今後どうあるべきか

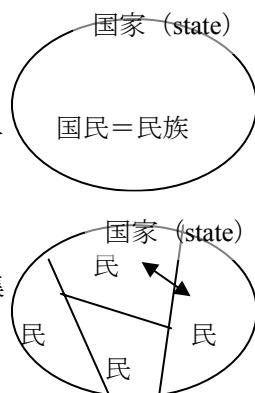
さまざまなレベル、さまざまな形態の〈社会集団〉／〈民族集団〉



世界システム＝近代国家システム
の形成

画一的な「民族」

- nation state の構成メンバーとして
の国民＝民族（nation）
あるいは
- state（国家）内の複数の「民族集
団」



運動としての「民族」、
政治としての「民族」
e.g. 先住民族運動、独立
運動

再び、ゆるやかで重層的な〈民族集団〉へ（？）

比較地域社会学／比較社会論（宮内）-2005
フェアトレードは本当にフェアか？

専攻	
学生番号	
氏名	

ソロモン諸島で、ある村人に言われました。「コプラの値段が最近安すぎる。これは誰かが中間搾取しているに違いない。日本の業者やグループと直接取引きするフェア・トレードをしたい。私たちは日本人たちとフェアな関係になりたい」。

さて、あなたはどうしますか？

- ・「フェアトレード」に応じますか？
- ・応じないなら、その理由をどう説明しますか？
- ・応じないなら、そのかわりに何をしますか？ あるいは、何もしませんか？
- ・応じるなら、いくらで買い付けて、誰に売りますか？ 市場価格より高く買いますか？
- ・応じるなら、どういうフェアトレードをしますか？ コプラの取引以外にも何かしますか？

などなどについて、自由に議論してください。

議論から出てきたポイント

比較地域社会学／比較社会論（宮内）-2005 最終日

ソロモン諸島の事例から

- ・なぜソロモン諸島は民族紛争で悲惨な結果をもたらさなかったか?
 - ・避難、生活再建をソフトランディングさせた人々
 - ・「民族紛争」という“大きな物語”に回収されなかつた生活実態
 - ・“社会的なものの強さ”ということ

- ・さまざまなりスク回避のしくみ
 - ・自然環境との多様な関係
 - ・それを支える社会的なしくみ

- ・ソロモン諸島における住民の生活戦略

↓

- ・「民族紛争」「開発」「環境」「貧しさー豊かさ」を「生活」からとらえなおす
- ・社会的なものの力

比較地域社会学／比較社会論（宮内）-2005 最終日

この授業でやったこと

1. モノから考える南北問題

一国一国は別々に存在しているわけではなく、相互に関連しあって存在している。このことを、いくつかの具体的なモノを通して考えてみた
たわし、ナタ・デ・ココ、タイヤ、かつお節

2. 「貧困」って何だ？

住民の生活から考えたとき「貧困」とは何か？さらにそれを本当の意味で克服するためには何が求められているか？
フィリピン・スラムの少年たち、バングラデシュの農民、貧困の定義、エンパワメント
グラミン銀行

3. 「民族」って何だ？

世界における「民族紛争」を素材に、「民族」とは何か、を考えた。「民族」とは固定的なものではなく、流動的なものであることを掘り下げた。

ルワンダの“民族虐殺”、民族とは何か？

↓

- ・「経済」「開発」「貧しさ－豊かさ」「環境」を社会に埋め込みなおす
- ・「社会的なもの」への注目